

2024区民と議会の交流会

～しながわ水族館リニューアルに向けて～



しながわ水族館HPより

建設委員会

昨年の交流会のご意見・ご提言から

2

- ・飲食ができる場所は必要なので、レストランは、残してほしい
→リニューアル後も活用する前提で検討
- ・しながわ水族館で人気のあったイルカショーに替わる、展示等を期待する
→近隣水族館にはない、水中感あふれる美しい展示を計画
- ・ペンギンのお散歩など企画してほしい
→区民アイデアを取り入れた展示や企画を検討(来年度にアイデア募集予定)
- ・水族館へのアクセスとしてバスがあるが、例えば歴史館を周遊するなど、区内の観光に資する施設へも行けるよう利便性を向上してほしい
→周辺観光施設との連携を検討
- ・品川駅前の水族館「マクセルアクアパーク」との違いを、名称を含め検討してほしい
→近隣の水族館との違いを明確にするとともに名称も検討中。
- ・リニューアルは2027年に予定されているが、その間の水族館の活用を要望
→工事中の既存水族館の活用については、工事内容が具体化した後に検討

設立の経緯

平成3年(1991年)10月19日に開館

設置構想は、昭和50年代、しながわ区民公園の当初のプランで、東京湾の史料や生物を紹介する「資料館」を設置しようとしたことにさかのぼります。

昭和50年代	しながわ区民公園内の施設として「資料館」の設置を検討
昭和60年代	区議会の要望を受け「水族館」の設置を検討
平成3年（1991年）10月19日	しながわ水族館開館
平成8年（1996年）8月	開館5周年記念「ペンギンランド」新設
平成13年（2001年）7月	開館10周年記念「シャークホール」新設
平成16年（2004年）12月	「トンネル水槽」リニューアル
平成18年（2006年）7月	開館15周年「アザラシ館」新設 「イルカ・アシカスタジアム」観覧席増設
平成20年（2008年）7月	「クラゲたちの世界」オープン
平成21年（2009年）7月	「東京湾に注ぐ川」リニューアル
平成29年（2017年）7月	開館25周年記念事業～夢の水槽～「地球」新設 「ペンギンランド」リニューアル
令和3年（2021年）7月	開館30周年記念「カワウソ～小さな狩人～」新設

しながわ水族館の立地

しながわ区民公園の南側に位置し、人工湖「勝島の海」に面しています。

京急線大森海岸駅から徒歩8分

JR大森駅から徒歩15分、

大井町駅からは無料バスで15分

区民公園の東側には首都高1号羽田線が走り、その奥には大井競馬場があります。

南側は勝島南運河に面し、その対岸の大田区側にはボートレース平和島、天然温泉平和島などの商業・娯楽施設があります。



しながわ区民公園

Shinagawa Kumin Park



公園の自然環境

「花とひろばと水と緑の公園」をテーマとした区を代表する公園で、勝島運河の一部を埋め立てて造成されました。

子どものアイディアを取り入れた遊戯施設に加え、水族館、運動施設、キャンプ場、運河の海水を利用した約6,500㎡の人工湖「勝島の海」や溪流風の流れがあります。

「勝島の海」は運河から海水を引き込みクロダイやハゼなどの様々な魚が見られ、アオサギやカワセミといった野生の水鳥も多く見られます。松並木、梅林や桜の広場があり、お花見の季節には多数の花が咲きます。



【写真1】 勝島の海の北端より南(水族館方向)を展望



【写真2】 勝島の海の橋より水族館を展望



【写真3】 勝島の海の南端より北方向を展望



【写真4】 遊歩道横で勝島の海に注ぐ流れ



【写真5】 勝島の海周辺には野鳥が多く見られる



【写真6】 春には桜の名所になる

しながわ水族館の概要

【コンセプト】

展示の「大地から大海原へ水のストーリーをたどる旅」です。

川の源流から河口、大海原へと水のストーリーをたどる景観の再現により
展示水槽が配置されています。

【代表的な展示】

平成3年開館当時には国内有数の長さを誇った「トンネル水槽」や、都内初となった「イルカショー」です。

「トンネル水槽」や「カメラ君の海中散歩」は、区民公募によるアイディアです。

構造等	鉄筋コンクリート、一部鉄骨造
建物	本館 地上1階、地下2階建 建築面積 1,919.07 m ² 延床面積 3,689.21 m ²
	アザラシ館 地上2階建 建築面積 375.26 m ² 延床面積 351.88 m ²
総水量	海水 1,806 トン/淡水 40 トン 合計 1,846 トン
飼育生物数	450 種 4,000 点
入館料	大人 1,350 円、小・中学生 600 円、幼児 300 円

<しながわ水族館の施設概要> ※2021年時点



[写真7]カメラ君の海中散歩



[写真8]トンネル水槽

しながわ水族館の活動

◆ 社会的役割とされる活動

○種の保存活動 絶滅危惧のムサシトミヨの繁殖などの保全活動

イルカの繁殖と研究

○調査・研究活動 東京湾での潜水による生物調査をもとにした展示

大学や研究機関との共同による研究活動

◆ 学校教育と連動した学習活動

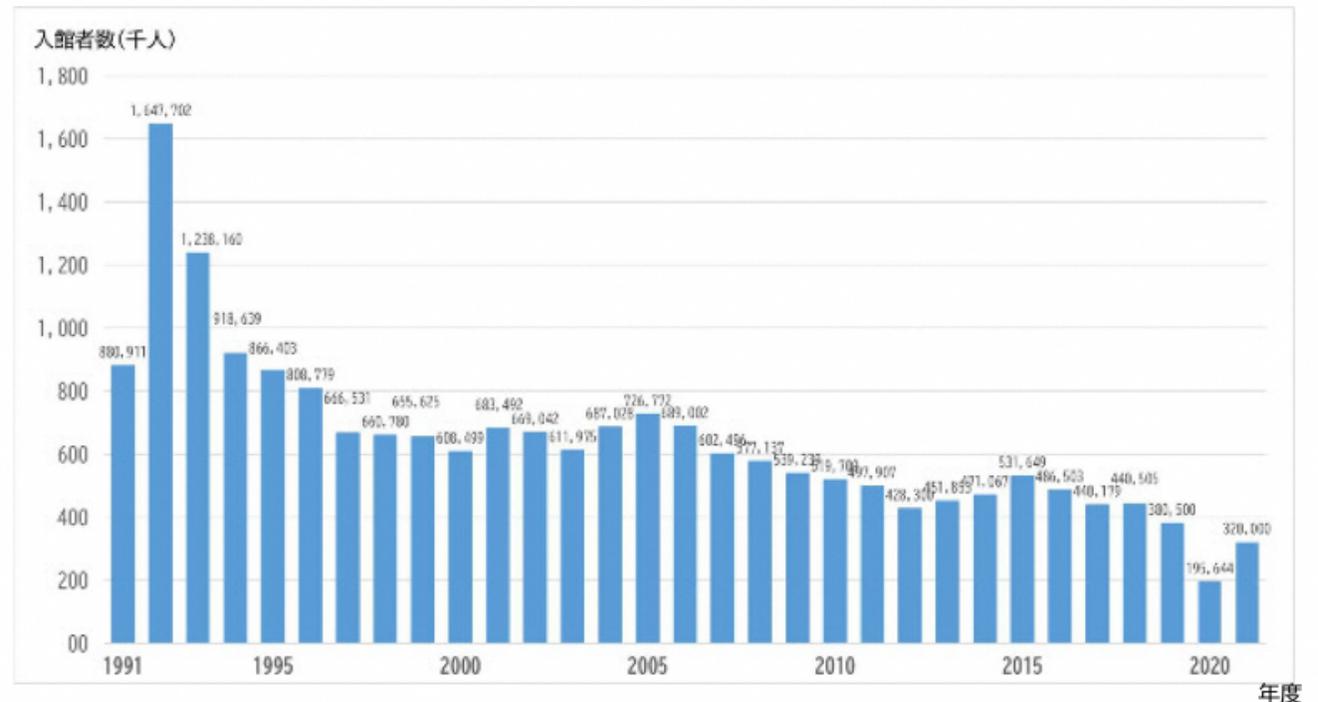
◆ 品川区の地域連携による活動

利用者の推移と実績

平成3年（1991年）の開館直後は、首都圏初のイルカショーが人気となり、最大では年間160万人を超える利用がありました。

しかし、首都圏で同業施設が開設されるなどの影響で2019年度には40万人を割り込んでいます。

■しながわ水族館 開館初年度からの利用者数推移



しながわ水族館顧客満足度満点プロジェクト

令和2年度（2020年度）には、しながわ水族館の今後の指針を策定するため、「しながわ水族館顧客満足度満点プロジェクト」を設置しました。

【専門家会議】

水族館の設立・再生および運営など水族館事業における各部門に精通した専門家による会議体です。

【検討委員会】

しながわ水族館の設立と運営に関係が深く、本水族館周辺で地域活動をする組織や役職者による会議体です。

しながわ水族館の課題

1.施設の老朽化による課題

14

①躯体水槽の漏水



[写真 9-1] トンネル水槽下漏水と躯体劣化



[写真 9-2] トンネル水槽下漏水と躯体劣化

②アクリルパネルの経年劣化



[写真 10-1] イルカアクリルのたわみ



[写真 10-2] イルカアクリルの表面劣化

③隠蔽部設備の劣化



【写真 11】 隠蔽部の配管の腐食

④屋外設備の劣化



【写真 12】 紫外線による劣化

⑤受水槽外壁のひび割れ

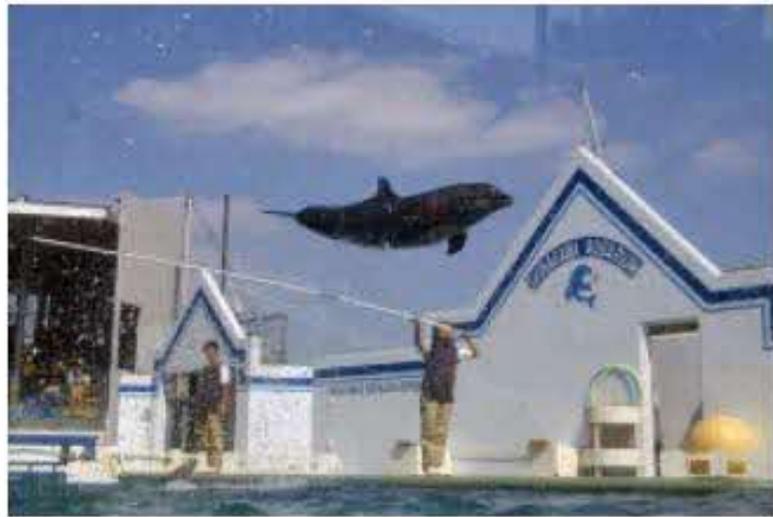


【写真 13】 受水槽外壁のひび割れ

2. 展示における課題

令和2年度の「しながわ水族館顧客満足度満点プロジェクト」においては、利用者の現状について、水族館の展示内容の視察および競合施設との比較、外部調査資料などを元に、展示における課題が抽出されました。

- ① 展示構成と内容に関する課題
- ② イルカ展示とイルカショーの課題



[写真 14] 古いタイプのイルカショースタジアム



[写真 15] 出産時にはショーも水中観覧も中止

3. 利用者の減衰と原因について

① 首都圏競合水族館の存在

首都圏には7館の水族館が営業しています。

娯楽要素の高い水族館もあり、強い集客力を持っています。

また、企業水族館は大規模な改修を繰り返すことと、商業的な広報宣伝活動によって、競合を互いに上回る魅力と集客力を持ち続けています。

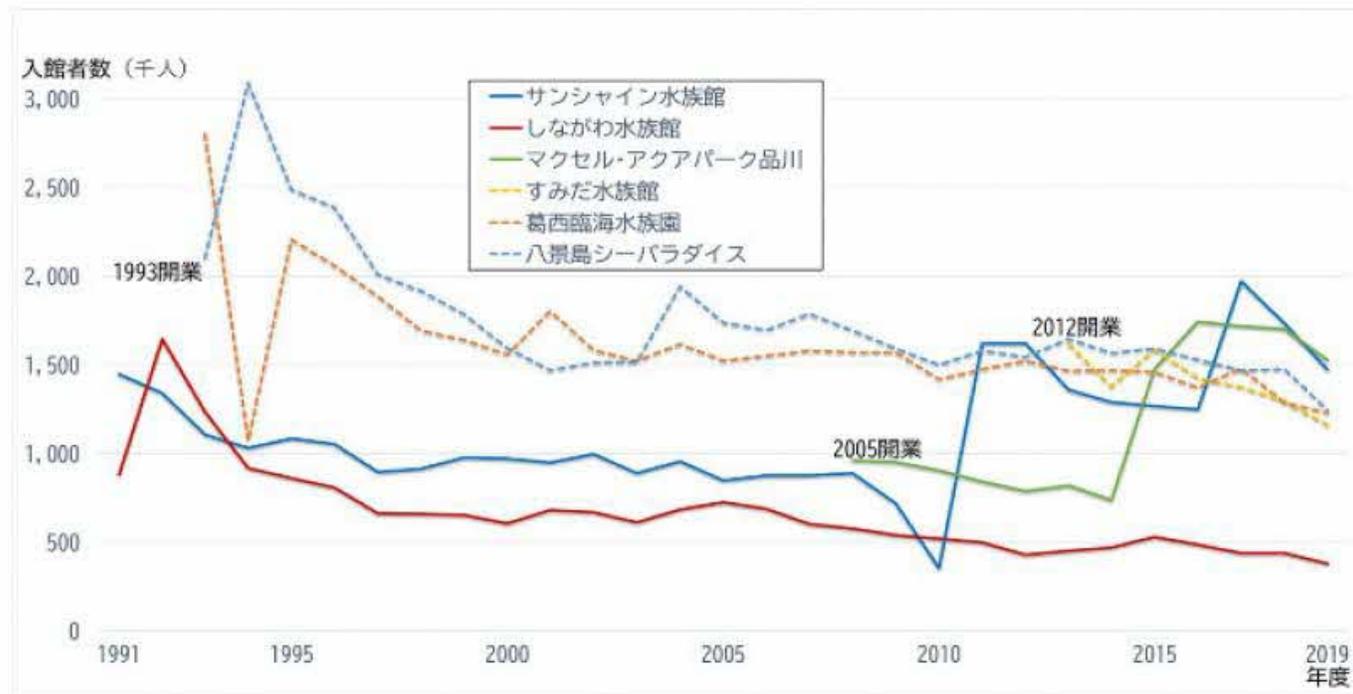


②近隣競合水族館の存在

開館当時は、都内の水族館が少なく、都内でのイルカショーは他に無かったため最大で年間160万人の利用者がありました。しかしその直後に京急線とJR線の同一沿線上にイルカショーを誘客力とする2館の水族館が誕生しました。

- ・1993年 八景島シーパラダイス
- ・2005年
エプソン品川アクアスタジアム
(現マクセル・アクアパーク品川)

■首都圏水族館の入館者比較



③ しながわ水族館の認知状況についての課題

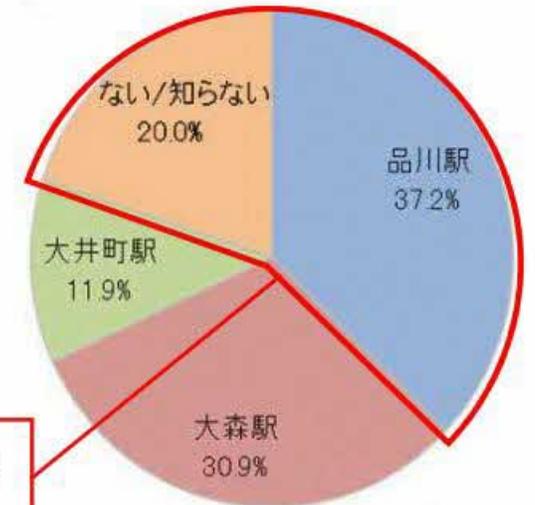
令和2年度に、しながわ水族館の認知状況について実施したWEBアンケート調査では、半数以上がしながわ水族館の場所がわからない、あるいは、マクセル・アクアパーク品川と間違えて認識していることが判明しました。

Q しながわ水族館にどのようなイメージを持っているか？（複数選択）

- 「駅前にある」「新しい施設」との回答は、マクセル・アクアパーク品川と勘違いしていると推察される。
- 「公園の中にある」「古い施設」との回答は、しながわ水族館を認識している。
- 「イルカショー」があるとイルカショーを強く感じた人の割合が最多であるが、マクセル・アクアパーク品川もイルカショーを実施しているので、共通項としてこのイメージが最多になったと推察される。

Q しながわ水族館の最寄りの JR 駅は？

- 「品川駅」との回答はマクセル・アクアパーク品川と勘違いしていると推察される。
- 「品川駅」および「あてはまるものはない/知らない」を合わせると 57.2% で、半数以上の方が認知していない。



場所を知らないか
アクアパーク品川
と勘違い=57.2%

1. 社会教育施設としての役割

①社会教育施設の基本的な役割

②文部科学省による指針

③持続可能な開発目標SDGsにおける役割

■SDGs で水族館が関与できること

SDGsのゴール	水族館でなし得ること
1 あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ	
2 飢餓を終わらせ食料安全保障および栄養改善を実現し、持続可能な産業を促進する	○ 地球規模での展示を行い、地球生命全てのバランスを説く理念を持った水族館は、人類の世界的な食糧事情を考える起点となり得る。
3 あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する	○ 社会人および高齢者の生涯を通じた健康維持のためのリクリエーションの役割は社会教育施設の目的の大きな一つ。
4 すべての人に包摂的かつ公正で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する	◎ 青年～高齢者の好奇心と知識欲を支える、高質な生涯学習を提供する社会教育施設であるとともに、子どもたちの学校教育を補完する施設でもある。
5 ジェンダー平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワメントを図る	◎ 人類の歴史的な社会ではなく、生物学的なアプローチにより、性それぞれの重要性や生命誕生のプロセスを展示する水族館は、ジェンダー平等の基礎学習の場となる。
6 すべての人々の水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する	◎ 水域への有害物質の放出、未処理排水などは、水環境を扱う水族館にとって重要な話題であり、さらに生物に与える影響も含めて学習および情報発信の場となる。
7 すべての人々に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する	
8 すべての人々のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワークを推進する	
9 レジリエントなインフラを整備し、包摂的で持続可能な産業化を推進するとともに、イノベーションの拡大を図る	○ 周辺環境を保つことを狙いにした水族館は、環境を持続的に利活用した観光産業や集客産業を発展させる核となり得る。
10 国内および国際的な不平等を是正する	◎ 生物の多様性を地球規模で展示する水族館は、常に人種や民族、性別、年齢などあらゆる事例における多様性を正しく示す指針となり、その情報発信力も強い。
11 都市と人間の居住地を包摂的、安全、レジリエントかつ持続可能にする	○ 水族館の持つ教養や知識、リクリエーションの提供機能は、常に「弾力的な社会力」を生み出す原動力となり、水族館そのものがあらゆる人々を受け入れる場所でもある。
12 持続可能な消費と生産のパターンを確保する	◎ 海の天然水産資源を多く利用する日本において、水産業と共に進化してきた水族館は、持続可能な消費の学びと強いメッセージを出せる社会教育施設である。
13 気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る	○ 水生生物や水環境の展示を通じて、気候変動に関する啓発や情報発信が可能。
14 海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する	◎ 水族館が最も期待される分野。身近な水辺から海洋問題に至るまで、水生生物の命を通して、全ての世代に広く、興味深く、強く問題提起と進むべき道を示すことが可能。 その対象は海洋世界にとどまらず、内水面の生物や展示を通じて内陸深くやジャングル、湿地にまで広がっており、市井の人々がグローバルな地球持続を包括的に、鑑り、考え、学び、研究する場所として水族館ほど相応しい施設はない。
15 陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地の劣化の阻止・回復および逆転、ならびに生物多様性の損失を阻止を図る	◎
16 持続可能な開発に向けて平和で包摂的な社会を推進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供するとともに、あらゆるレベルにおいて効果的で責任ある包摂的な制度を構築する	○ 人を除く野生動物たちの平和で豊かな暮らしは、年齢を問わず平和教育へのキッカケになることが多い。
17 持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化	

2. 生物展示施設としての社会的役割

- ①動物園水族館の主な社会的役割
- ②水族館の主な社会的役割（水生生物資源の持続的利用・命の展示）

3. 区立水族館として求められること

- ・ 都内の特別な水族館
- ・ しながわ区民公園の価値向上
- ・ SDGsに貢献
- ・ 品川区民の誇り
- ・ 情報発信のシンボル

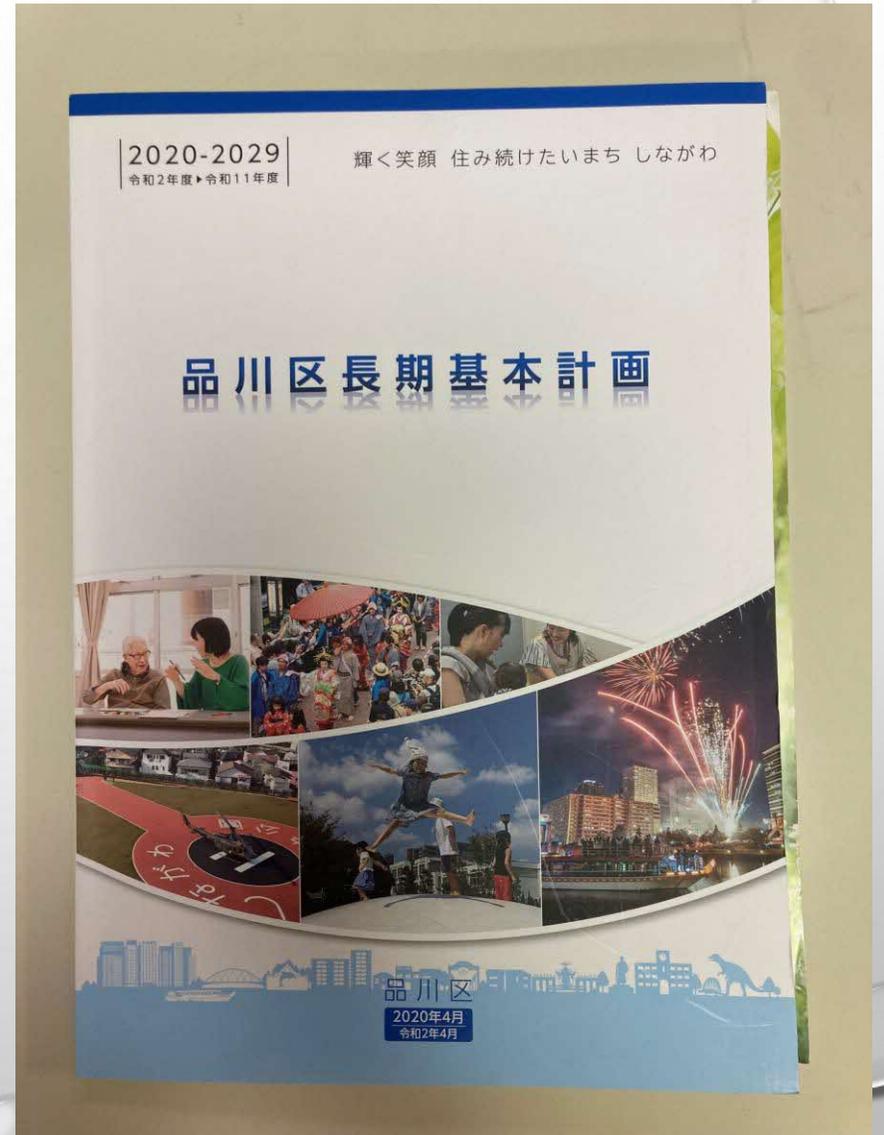
4. 次世代水族館に望まれる機能および価値

- ・ 最新の水族館かつ最新の社会教育施設としての役割と効果を正しく反映
- ・ 地球環境や生物資源そのものを展示できる水族館は、SDGsのゴールのほとんどに貢献でき、品川区のシンボルとしての価値の向上

1. 次世代水族館開発の方向性

①次世代水族館の方向性

- ・品川区長期基本計画において関連する政策の柱についてその推進の役割を果たすこと。
- ・品川区の都市型観光の拠点となると共に、歴史文化についても情報発信する水族館となること。
- ・しながわ区民公園と一体となることで公園および水族館の双方の魅力を向上させること。



②イルカ展示とイルカショーの廃止

◆イルカショーの現状

イルカショーは、施設上の問題および世界的な情勢により複数の課題が抽出されたため、専門家会議と検討委員会において幅広い情報を基に議論が重ねられました。

令和2年度検討の中では、水族館の規模設定および建設と運営管理における費用が特別に必要であると結論付けられ、イルカ展示の継続は終了することが上位提案とされました。

◆品川区の方針

総合的に判断し、新たな計画ではイルカ展示を終了するのが妥当であると結論づけました。



しながわ水族館HPより

2. 次世代区立水族館の開発イメージ

①建設場所および施設規模

- ・しながわ区民公園内の勝島の海に隣接する位置とします。
- ・規模は中規模（延床面積5千㎡程度）とします。
- ・年間利用者数の想定を、初年度100万人、5年後想定60万人とします。

②開発理念　【品川らしさとは】

- ・品川は東京湾に面した海のまちであり、文化と産業の発祥地
- ・江戸時代に漁村として発展、海苔養殖や潮干狩りなど江戸前の海の象徴
- ・東海道最初の宿場町「品川宿」
- ・縄文時代から人が居住し、貝塚や古墳時代の古墳群など集落の遺跡

③展示理念

◆展示理念

- ・しながわ区民公園と一体的な魅力の向上
- ・水中感あふれる美しい展示
- ・文化と歴史を取り入れた展示
- ・東京湾にこだわりを持った展示
- ・品川の情報発信と区内他施設との連携
- ・区民アイデアを取り入れた展示



しながわ水族館HPより

④施設計画について

展示以外の施設としては、以下のことに配慮した計画を行います。

◆誰もが利用できる施設

◆持続可能な施設

◆近隣住民への配慮



しながわ水族館HPより

3. しながわ区民公園および現状施設の考え方

①次世代水族館立地の考え方

- ・ 展示効果を高める空間演出が重要

②公園および既存施設の利用

- ・ 現在のしながわ水族館
老朽化が進んでおり、水槽など設備の二次的な使用については検討が必要
- ・ 売店・ショップ・スタッフルーム等の建物施設については、継続的に活用



リニューアルのスケジュール(予定)

令和4年度 (2022年)

リニューアルにむけた検討、事業者・設計者選定基準

令和5年度 (2023年)

事業者・設計者選定

令和5年度～7年度 (2023～25年)

設計期間

令和7年度～9年度 (2025～27年)

工事期間

令和9年度 (2027年)

リニューアルオープン

しながわ水族館リニューアル事業者決定

建設委員会資料
令和5年11月28日
防災まちづくり部公園課

○運営準備事業者
株式会社サンシャインシ
ティ

○設計事業者
株式会社三菱地所設計

しながわ水族館リニューアル整備運営準備事業

事業者の選定結果について

しながわ水族館リニューアル整備運営準備事業について、簡易型プロポーザル（公募型）を実施した。今回、公募にあたり、運営準備の検討内容を効率的に設計に反映させるため、運営準備事業者が設計事業者を選定し、提案を取りまとめたものを求めた。

公募の結果、1者から応募があり厳正な審査を行った結果、事業者を下記のとおり選定した。

1 選定事業者

(1) 運営準備事業者

事業者：株式会社サンシャインシティ 代表取締役社長 合場 直人

所在地：東京都豊島区東池袋 3-1-1

(2) 設計事業者

事業者：株式会社三菱地所設計 代表取締役 国府田 道夫

所在地：東京都千代田区丸の内 2-5-1

2 選定方法

事業者による提案説明およびヒアリングを実施したのち、審査会、選定会議を経て事業者を特定した。

(1) 提案説明・ヒアリング（事業者による提案内容に対し、ヒアリングを実施）

(2) 審査会（審査基準に基づき審査を実施）

〈委員構成〉	委員長	防災まちづくり部長
	委員	企画課長、施設整備課長、文化観光課長、子ども育成課長、 教育総合支援センター長、環境課長、公園課長

(3) 選定会議（審査会の結果を踏まえ、最適と認められる事業者を特定）

〈委員構成〉	委員長	桑村副区長
	委員	企画部長、文化スポーツ振興部長、子ども未来部長、 教育次長、都市環境部長、防災まちづくり部長

品川区議会での議論

Q. 通常17時までの営業時間を2024年7月20日～9月30日の期間で18時まで1時間延長して、リニューアル後の営業時間を検討するとのことだが、どのような論点で検討するのか。

A. 以下の点について調査するため。

- ・近隣住民に配慮する必要があるので1時間延長の影響
- ・過去に時間延長した際は需要が無かったが、現在の状況を確認

Q. 指定管理制度での運営を予定しているが、区は指定管理事業者にどのように関わるのか？視察した「アクア・トトぎふ」では利用料方式により収益を事業投資に充てる経営がなされている。種の保存など採算性のない役割も担う水族館の在り方をどのように考えているのか。

A. 指定管理制度には様々な手法があり、工事前の現段階では幅広い検討の余地がある。種の保存などリニューアル後もしっかり実施するなど、事業者と検討していく。

Q. 水族館への交通アクセスについて。

A. どのように来るのが一番来やすいか、リニューアル計画の策定にて検討する。

品川区議会での議論

Q. 生き物との触れ合いや餌やりによる体験学習、アクアポニックスなどリニューアルした水族館で実施の予定は。

A. 餌やりなどの体験学習、アクアポニックスは検討しているところ。具体的な形はこれから検討していく

Q. 利用者の8割が区外。リニューアルにおいては、区外の方々の声も聞くべきでは。

A. 品川区民の方々からまずは意見を収集して、区民の方が誇れる水族館となるように取り組んでいくという考え。

Q. 区民の声を聞く機会について。

A. 展示に区民のアイデアを取り入れるといったところについても、事業者選定に当たっては、しっかりと条件として区民のアイデアを新しい水族館においても取り入れた魅力的な展示といった形で、皆さんに愛していただけるとなるように努めていく。

Q. 命の大切さや水辺環境を学べる拠点は今後ますます貴重と考え、重要テーマとして取り組んでほしい。

十分なイベントスペースを確保し、多様なニーズに応えるにぎわい創出空間をお願いしたい。

品川区らしさである地域イベントへのブース出店や出張水族館、レストランなど、飲食の充実などを求める。

A. 自然環境の中の社会教育施設として、憩いと教養の場を目指すとしています。水辺の文化観光施設としても期待されていることから、にぎわい創出の空間確保についても検討の一つとしてまいります。また、リニューアルまでの期間も多くのお客様に来館していただけるよう、特別展の実施やその情報発信に加え、イベントなどとの連携を引き続き行うなど、運営事業者と共に取り組んでいく。

Q. しながわ水族館の名前について。

A. しながわ水族館の名前については、会議では実は話題に上っておりまして、やはりアクアパーク品川と混同されにくいような、別の水族館だとしっかりと認識をしていただくような名前というものを検討するべきではないかというような話は、会議の中でも出ている。